

【質問1】中学校・公募応募教員

※ 職層及び年齢は、赴任時のものです。また、各職層の養護教諭を含みます。

町村名	職層	性別	年齢	【質問】 赴任する前、島しょに対して、どのようなイメージを持っていましたか。	【質問】 実際に赴任して、そのイメージは変わりましたか。
大島町	教諭	男	30代	・台風などの自然災害への不安 ・物価が都内に比べて高い ・不便な面が多い	・インターネットなどICT技術の発達により、さほど不便を感じない。
大島町	主任	男	30代	・少人数で、きめ細かな指導が可能である。 ・内地の先生方は、島は楽だというイメージが大半だと思うが、そんなことはないと思っていた。	・実際に赴任してみて、やはり良い意味で忙しいと感じている。 ・先生方のフットワークが軽く、協力協同体制ができている。清掃や草刈り、修理などを率先して行う先生方が多く、手作りでできている学校を感じることが多い。
大島町	教諭	男	20代	・生活面においても、仕事面においても、ゆったりとしたイメージがあつた。前任校でお世話になった管理職も、伊豆大島での教員経験があり、その方から島のゆったりとした雰囲気のある話を聞いて興味をもった。 ・一方で、その管理職は、保護者との連携が大変だったと言っていた。	・実際は、ゆったりとしておらず、激務であると感じている。 ・(保護者との連携が大変という点に関しては)聞いていた話と異なっていると感じている。
大島町	主任	男	40代		・公募で希望していたこともあり、良くも悪くも「島しょ」というのを感じます。自分のもっていたイメージとはあまり変わりませんでした。
利島村	教諭	男	20代		島の外から的人には厳しく、日常生活が不便なイメージでしたが全く逆でした。島民の方はとても親切で迎え入れてくれる雰囲気でした。日常生活においても通販が発達しているのでほとんど不便することはありません。
新島村	教諭	女	20代	赴任する前は、島の自然とのびのびとした様子がイメージの大半を占めていた。島に赴任できることがうれしかったので、不安はあまりなかった。	実際に赴任してみて、冬場は風が強く外に出られなかつたり、天候が悪いために船がつかず、荷物が届かないなど不便な点はもちろんあるが、それも自然の一部だととらえているので、苦痛に感じることはない。 教育面に関しては、イメージ通り本当に素直で気持ちのまっすぐな生徒が多いと感じている。しかし、島内に高等学校があり、毎年定員割れで全員が入学できるため、学習に対する意欲が低いことには少し驚いた。『高校進学』という目標以外に、『自分の成長』という大きな目標を意識して学習に取り組ませるために、日々苦労している。
神津島村	主任	女	30代	・保健指導や保健教育にじっくりと取組む時間、深める時間、教材開発の時間、全国の取組に目を向ける時間がたっぷりとれると思っていました。	・小規模校だと、保健に特化した仕事ではなく、多くの校務分掌があり、案外その時間が…という現状ですが、大規模校一人配置で苦労していた切迫感のようなものではなく、また、多くの分掌の経験や、校内の異なる仕事をしている方との交流もあり、学校全体の動きがよくわかり、勉強になります。
	教諭	女	40代	①授業数が格段に少なく、教材研究ができる。 ②悪いイメージは、特になかった。	①変わらなかった。異動した1年目から担任を持つことが多く、教材研究が後回しになることが多かったが、島ではできている。生活科などのお手伝いもできていることは興味深く、刺激を受けている。